

物語の内ひとつを読み取る

名前	組	番	月	日	正答数
					3

ねらい ●場面の様子や登場人物の様子を思いえがく。

問題

次の文章を読んで、あとどの問題に答えましょう。

〔陽子（六年生）は地域の卓球クラブの選手。そこに美月（中学一年生）が入部した。美月は卓球をやめたことがあり、陽子は、美月がまたやめるのではないかと思っている。ある朝、陽子は先輩の広海にさそわれて公園に行つた。〕

〔見せたいものがあるんだ。だまつてろ。〕

〔え、なに。〕

広海先輩がそれつきり答えず、すべり台のかげからブランコの方角を見るので、陽子は広海先輩の背中を見るに立つと、ずいぶん背が高くなつたんだな、と思う。陽子も百五十五センチあって、クラスの女子では後ろから三番目なのだけれど、広海先輩は百七十センチ近くあるみたいで、顔の位置が全然違う。

〔来た。つーか、トイレの後ろにかくれたほうがよかつたな。ここだとバレるかも。もう遅いけど。〕

ひとりごとを言いながら、広海先輩はしゃがみこんだ。

〔あ……。〕

陽子もしゃがみかけたのだが、途中でストップしてしまつた。来たのは、美月ではないか。白のぴたぴたのTシャツを着て、髪の毛をぎゅっとおだんごにして、上半身だけ見たら、バレリーナみたいだ。下はトレパンだけれど。

美月はブランコの横にあるベンチに陣取つた。背中にしょつていたリュックをそこに置いて、中からなわとびを取り出した。ぶんぶんぶんと、とびはじめる。最初は二重とび、その後、ハヤブサとび、最後は三重とびをやって、失敗したところで、リュックから今度はタオルを出して、顔をふいている。そして、次に取り出したのは卓球のシェイクハンドのラケットだった。

〔シユツシユツシユ。まずはフォアハンドの素振り。続いてバックハンド。四回に一回はバックハンドスマッシュで、大きく振りぬいている。〕

〔あいつさ、クラブに入部してから、毎日ずっとやつてるんだ。ひとり朝練。〕

〔吉野万理子「チームみらい」より〕

※注 1 シェイクハンド：ラケットのにぎり方の一つ。

2 フォアハンド：ラケットを持つ手の側に来た球を打つこと。反対側に来た球を打つのが「バックハンド」。

◆読解のポイント①◆

〔**だいせつ**〕

だれが、どこで、何をしているのかをとらえよう。

・場所 || 公園 (すべり台とブランコがある。)

・登場人物 || 広海 ひろみ • 陽子 ようこ • 美月 みづき

広海：「すべり台のかげからブランコの方角

を見ている」

陽子：「広海先輩の背中 せなか を見ることにした」

「すぐそばに立つ」

←その後、だれかが「来た」。

広海：「しゃがみこんだ」

陽子：「しゃがみかけた」

前に立っていた広海が先にしゃがんだ。

陽子：「途中 とちゅう でストップしてしまった。来たのは、美月ではないか」

「広海がしゃがんだので、美月のすがたが陽子に見えた。」

(1) 「ここ」とはどこですか。文章中から七字でぬき出しましょう。

(2) 途中でストップしてしまったとありますが、このとき、陽子はどういうことに気づいたのですか。書きましょう。

◆読解のポイント②◆

〔**だいせつ**〕

登場する人物の様子や行動を表す言葉に注目しよう。

【美月の様子】

服そう：「白のびたびたのTシャツ」「下はトレパン」

リュックから取り出したもの

①なわとび 「二重とび……三重とび」

②タオル

「顔をふいている」

行動

③ラケット 「フォアハンドの素振り……」

美月は、ひとりで朝練をしている。

(3) 見せたいものがあるとありますが、広海は陽子に何を見せたかったのですか。次の文の□にあてはまる言葉を文章中からぬき出しましょう。

が、ひとりで真けんに

をしている様子。

広海と陽子は、
すべり台のかげに
かくれている。

物語の内・外を読み取る

●・●・●・●・●・●・●・●

(1) すべり台のかげ
例 美月が公園に来たこと。
(2) 美月・朝練

(2) あとに「来たのは、美月ではない
か」とあります。
(3) 最後に広海が「あいつ、……毎
日ずっとやつてるんだ。ひとり朝練」
と言っています。